

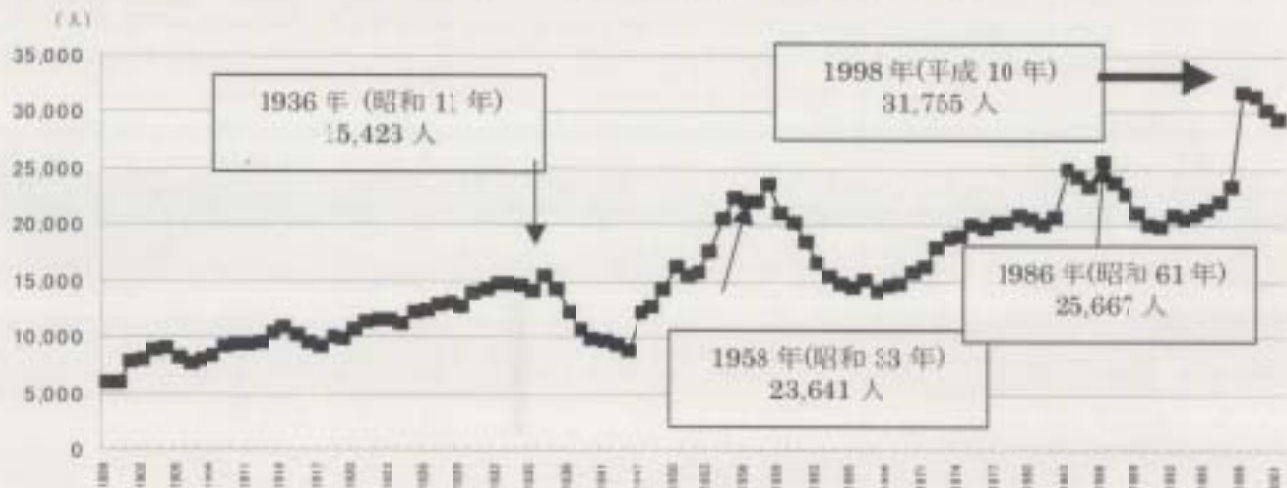
資料編)

## ○ 自殺の現状

### 1. 自殺による死亡数、死因順位

厚生労働省人口動態統計によると、自殺死亡数は、平成9年23,494人(男性15,901人、女性7,593人)から平成10年に急増し、31,755人(男性22,349人、女性9,406人)となった。以後、3万人前後を推移し平成13年は29,375人(男性21,085人、女性8,290人)である。自殺死亡数の年次推移では、昭和30年前後の第1のピーク、昭和60年前後の第2のピーク、現在の第3のピークである。平成13年の人口動態統計によると、自殺は、死因の第6位、男女別では、男性で第6位、女性で第8位となっている。25～44歳の男性においては、死因の第1位となっている。

自殺死亡数の年次推移 (明治32年～平成13年)

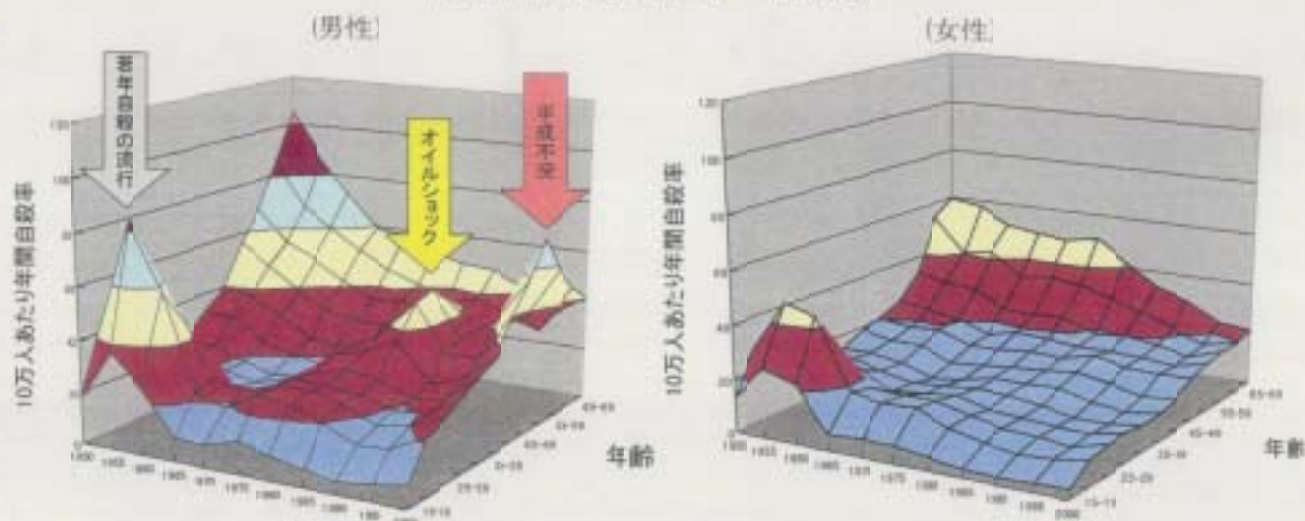


(第4回自殺防止対策有識者懇談会資料：厚生労働省人口動態統計)

## 2. 性別年齢別自殺死亡率・年次推移

中年の男性、高齢者の自殺死亡率が高い特徴がある。昭和25～35年頃は、男女とも15～29歳の自殺死亡率が高い。昭和40～50年頃は、主として45～59歳の中年男性の自殺死亡率が増加した。平成9年からは45～60歳の中年男性の自殺死亡率が急増している。

性別年齢別自殺死亡率・年次推移



(第4回自殺防止対策有識者懇談会資料(川上委員)：厚生労働省人口動態統計より川上委員が作製)

## 3. 出生コホート別年齢階級別自殺死亡率

清水ら<sup>1)</sup>の分析によると、昭和6～15年生まれの世代は、戦後のどの時代でも、自殺の激増をになった。平成に入ってから、昭和21～30年生まれの世代が自殺の激増をになっている。

出生コホート別各年齢階級の自殺死亡率(人口10万対)

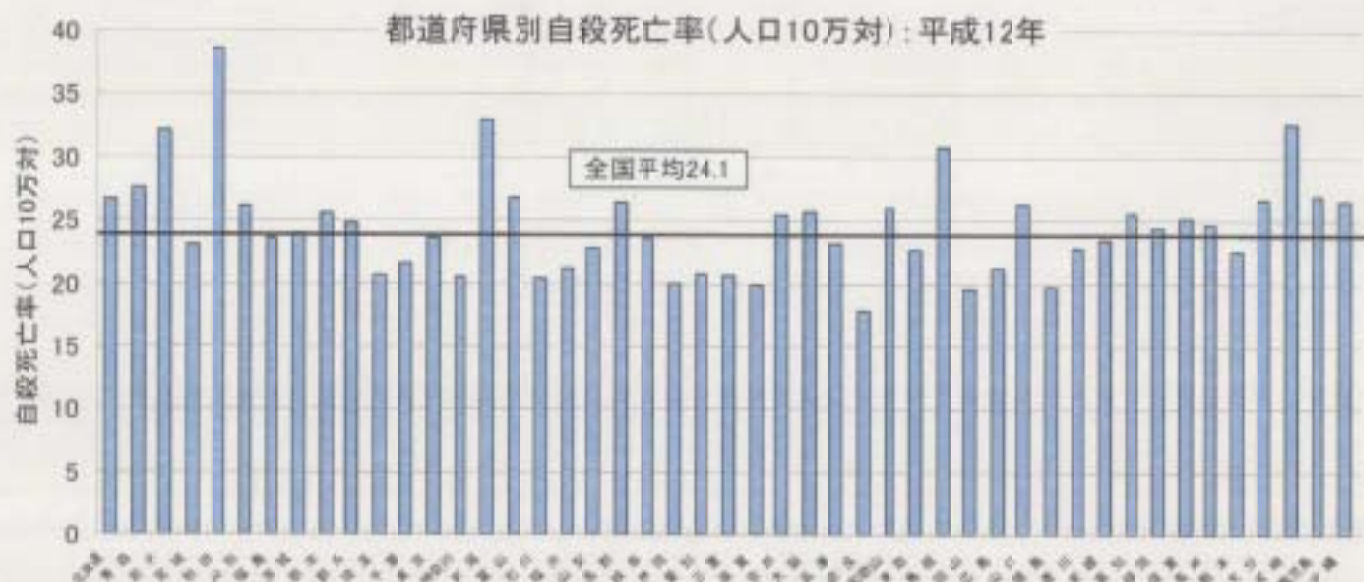
年齢階級(歳)	昭和30年					昭和60年					平成10年		
	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74
出生年コホート													
昭和													
1-5年生	0.7	※	36.3	41.3	19.9	13.2	11.4	20.5	23.6	30.5	24.5	22.5	32.6
6-10年生	※	15.3	65.4	34.7	14.6	15.3	20.4	24.6	34.8	25.1	26.0	36.6	
11-15年生	0.0	31.7	51.3	20.0	15.3	18.5	22.1	31.9	25.0	28.2	41.5		
16-20年生	0.9	23.8	20.8	18.7	19.4	19.7	21.1	22.0	28.6	41.5			
21-25年生	0.6	7.4	17.5	20.7	17.4	18.0	16.3	21.1	42.0				
26-30年生	0.5	7.8	21.5	19.4	16.6	14.3	17.5	31.9					
31-35年生	0.7	9.7	18.0	16.8	14.2	15.1	24.1						
36-40年生	1.1	7.3	14.4	13.4	14.5	22.4							
41-45年生	0.6	5.1	10.6	14.0	20.6								
46-50年生	0.8	3.8	11.4	18.9									
51-55年生	0.6	5.0	15.9										
56-60年生	0.9	7.9											
61-平成2年生	1.3												

人口動態統計より作成。但し平成10年については月報年計値より。※印は戦時中のためデータなし。

(第3回自殺防止対策有識者懇談会資料(西田委員)：文献1)

#### 4. 性別年齢別都道府県別自殺死亡率

平成12年厚生労働省人口動態統計を用いた川上委員の分析によると、性別年齢別都道府県別自殺率は、いずれの都道府県でも中高年男性において高い。また、年齢層によってばらつきはあるが、東北地方（秋田、岩手、秋田等）を含めた日本海側および九州地方（佐賀、宮崎、鹿児島）・沖縄で男性の自殺死亡率が高い傾向にある。女性でも東北地方で自殺死亡率が高い傾向にある。



第1回自殺防止対策有識者懇談会資料（事務局）：厚生労働省人口動態統計

#### 5. 自殺の原因・動機

警察庁「自殺の概要」によると自殺の原因・動機としては健康問題が最も多く、経済・生活問題、家庭問題がこれに続く。特に、平成9年及び10年においては、経済・生活問題、勤務問題を動機とした自殺や無職者の自殺が顕著に増加している。

自殺の原因・動機別死亡数の推移

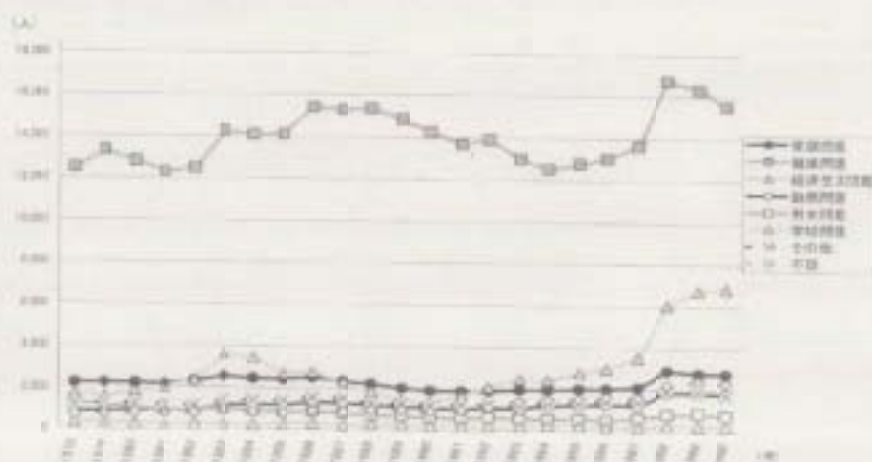


図5 原因・動機別自殺者数の推移

資料 警察庁「自殺の概要」(平成17年中に2017年自殺白書)平成17年4月

(第4回自殺防止対策有識者懇談会資料(川上委員)：文献2)

## 6. 職業別自殺死亡数・自殺死亡率

警察庁「自殺の概要」によると無職者、被雇用者、自営業者が多く、平成10年からは無職者と被雇用者が急増している。職業別年齢調整自殺死亡率は、平成7年厚生労働省人口動態特殊報告によると、男性で無職者、農林漁業従事者、サービス業従事者、女性で無職者、農林漁業従事者が高い。

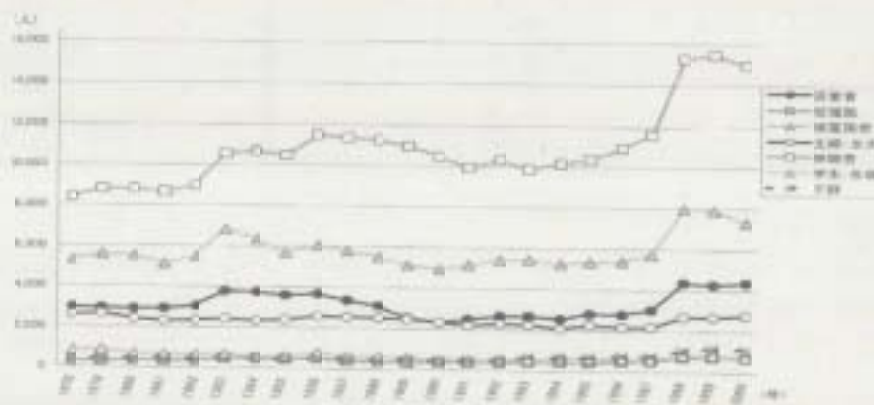


図4. 職業別自殺者数の推移

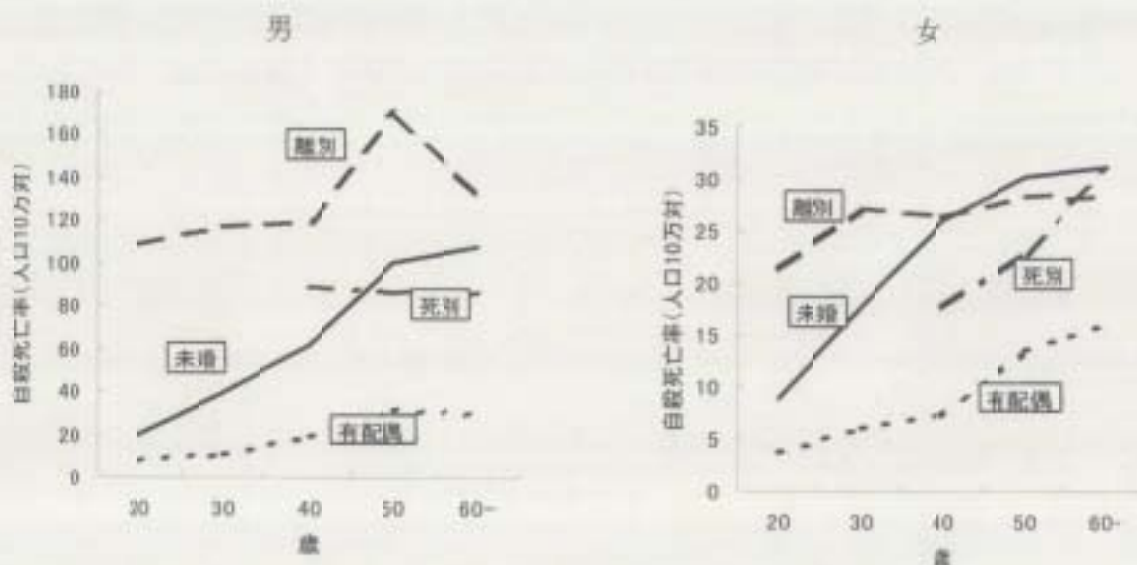
資料 警察庁「自殺の概要」(平成10年4月1日現在)と厚生労働省「平成7年人口動態特殊報告」(平成7年)

(第4回自殺防止対策有識者懇談会資料(川上委員):文献2)

## 7. 性別年齢別配偶者関係別自殺死亡率

平成7年厚生労働省人口動態特殊報告によると、有配偶者にくらべて死別および離別者の自殺死亡率は、男性で4~6倍、女性で2~3倍高い。特に男性30~59歳では離別者における自殺死亡率が顕著に高い。

性・年齢(10歳階級)・配偶者関係別自殺死亡率(人口10万対) —平成7年—



注) 死別の「20-29歳」「30-39歳」は、死亡数が少ないため掲載していない。

(第3回自殺防止対策有識者懇談会資料(三沢委員):文献3)